

順位	氏名（議席）	発 言 の 要 旨
4	植松 光徳（８）	<p>1. 富士市における地域医療体制の変遷と持続可能な地域医療体制の確立に向けた今後の課題について</p> <p>地域医療は市民の命と生活の基盤を支える上で欠かせないものであり、医師・看護師をはじめとする医療従事者の献身的な努力と、地域社会全体の支え合いによって成り立っています。特にここ数年、コロナ禍を経て医療提供体制の逼迫が全国的な課題となる中、本市でも630問題、430問題と呼ばれる救急搬送困難事案への対応が重要な課題として認識されてきました。</p> <p>そうした中、本市では、救急医療提供体制の充実をはじめ、医療人材確保の取組、在宅医療や地域包括ケア体制の推進など、地域医療の基盤強化に向けた多くの施策が進められてきたところです。</p> <p>一方で、少子高齢化の進行、医師や看護師の人材不足、地域間の医療格差など、課題は依然として山積しております。</p> <p>来年１月には小長井市長が12年の任期を終え勇退されます。そこで、これまでの市政運営の下で地域医療体制がどのように変化し、どのような成果があったのか、また、今後の市政に引き継ぐべき課題は何かという視点から、以下伺います。</p> <p>(1) 小長井市長の任期12年間における富士市の地域医療体制の変化と成果について伺う。</p> <p>(2) 富士宮市を含めた富士保健医療圏の医療連携体制構築の進捗状況について伺う。</p> <p>(3) 次の市政においても引き継ぐべき地域医療課題をどのように考えているか伺う。</p>